

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年8月12日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671100180
法人名	医療法人 椎原会
事業所名	高齢者グループホーム有馬館
所在地	鹿児島県南さつま市加世田地頭所570番地 (電話) 0993-53-3667
自己評価作成日	平成30年5月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年7月24日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・年間目標を立てて介護に取り組んでいる。半年後に中間反省をして全員で目標に近づく努力をしている。  
(30年度目標)
  - 1) 外出の機会を増やし気分転換を図る。
  - 2) 脳や心身機能をアップできるようなレクリエーションを考える。
- ・一人一人の思いを知る努力をして穏やかな生活を支えるために、全員で検討して情報の共有と統一した介護を目指している。
- ・加齢による身体機能の低下を防ぎ機能維持を目的に隣接病院のリハビリテーションが受けられるよう支援している。また、その指導で自主トレーニングや歩行訓練を毎日行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、周囲に大型店舗やコンビニエンスストアがあり、日常の外出で地域の人々とふれあいながら買い物を楽しめる環境である。家族会や行事にも積極的な参加があり、面会も多く、アットホームな雰囲気である。
- ・母体医療機関が併設しており、定期的受診や訪問看護との連携も図られ、日常の健康管理や緊急時の対応などに適切な医療が受けられるよう支援している。
- ・週3回の、身体機能の低下防止や機能維持を目的としたリハビリや立位訓練にも力を入れている。トイレでの排泄や排泄の自立に活かしている。オムツを減らす取り組みで、改善がみられた例では本人や家族の喜びも大きい。
- ・管理者は職員が働きやすい環境作りに配慮し、資格取得に向けての支援や各種研修への出席を奨励している。職員間のコミュニケーションも良く離職者も少ない。利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望・意向を大切にして、大正琴や書道・絵画等の好きなことに親しめるように配慮し、日々の生活の楽しみに活かしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	現状に合った理念になっているかを年に1回検討する機会を作っている。今年度は見直しをする予定で定期的に話し合いをしている。	地域密着型サービスを踏まえた理念である。年1回見直しの検討をしている。週1回、申し送り時に唱和してケアの振り返りや確認をしながら、理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として回覧板で情報を得て行事へ参加したり、周辺のゴミ拾いに毎月1回参加している。また、散歩や買い物に出かけて地域とのつながりを持つようにしている。	自治会に加入し、市民文化祭などの地域行事にも積極的に参加している。併設のデイケアの行事に招待されたり、保育園児や幼稚園児との交流を楽しんでいる。高校生の実習やボランティアの受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	中学生や高校生の実習を通じて認知症への理解を得られるように実情や支援方法を伝えている。運営推進会議に出席の地域の方へも現状や問題点を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や経過、評価結果等を報告して現状や問題点について伝えている。意見やアドバイスは日々のサービスに活かすようにしている。	会議は定期的に開催している。事業所の状況や外部評価の報告などを行い、参加者から多くの助言や提案が出されている。意見により、室内外の冬季の温度差に配慮したり、事故報告書を詳細に報告するなどサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	相談や問い合わせは積極的に行っており、運営推進会議では現状や取り組みを伝えて助言をもらっている。	市担当者には、電話や窓口に出向き事業所の実情や取り組みを伝え、助言を貰っている。市主催の研修会にも積極的に参加している。運営推進会議を通して協力関係もできている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	併設病院と合同の身体拘束廃止委員会に毎月出席している。今年度は4回の研修や勉強会を計画している。また、玄関はいつでも開放して身体拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、併設の医療機関と合同で研修を実施している。職員の共通認識を図り、言葉による拘束も含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中の玄関の施錠はせず、外出しそうな様子を察知したら、見守りや同行など職員間の連携で安全な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会の機会を持ち、日頃のケアを振り返り虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	該当する事例の経験はないが他職種との研修や連携を通じて知る機会を持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は書面で丁寧に説明して同意を得るようにしている。			
10 6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	いつでも意見や要望を受け入れる姿勢を示すために館内には意見箱を設置し苦情受付の担当や第三者委員の表示をしている。日頃の面会や家族会、運営推進会議等を通じて意見を出しやすい機会を作っている。	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き、思いを把握している。家族からは面会や忘年会前の年1回の家族会・電話・運営推進会議・便りで現状報告を行い、意見を聞く等して運営に活かしている。		
11 7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送りやミーティング、アンケートや面談、気づきのノート等を使って意見や提案をしやすい環境を作っている。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図り、ミーティングやアンケート・気づきノート等で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。個々の1年間の目標を作成し取り組んでいる。管理者は意見や提案が出やすい雰囲気づくりに配慮し、出された意見は運営に反映している。		
12	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格や経験に応じた給与体系になっている。有給休暇も可能な限り取得できるようになっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格や年数に応じて内外の研修を受ける機会を作っている。今年度から学研メディカルサポート制度の導入で学ぶ体制ができている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の一員として活動し交流会や研修会を通じて質の向上を目指している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	見学や面接をして心身状況や思いを知り安心してサービスの利用が開始できるように努めている。		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	見学や面接をして心身状況や思いを知り安心してサービスの利用が開始できるように努めている。		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	現状を知り要望を聞き必要としている支援について行政や他のサービスへ相談や紹介をする等の対応をしている。		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	できることを見極め得意なことが続けられる環境を整えている。昔の体験や思い出を語ってもらい伝統や習わしなどを教えてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子や問題点を日頃から伝えて共有するようにしている。本人の思いを実現するために共に協力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会ができる雰囲気作りをしながら、手紙や電話での交流を支援している。墓参りや地域の行事に参加したり散歩や買い物をして馴染みの人や場所との交流を続けている。	親族や友人・知人の訪問の際にはお茶を出してゆっくりしてもらっている。デイサービスセンター利用の友人との交流や職員支援での墓参や地域行事に参加するなど、継続的関係が途切れないう支援している。手紙や電話の取次ぎも行っている。家族の協力で外出や外食などにも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の体操やレクレーション、ゲームや外出、戸外でのお茶会などを実施して利用者同士の交流が持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もその後の経過や状況に关心を持って相談や支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>嗜好調査をする等して日頃から思いや希望を聞くようにしている。出現している言動にどのような思いがあるのかを全員で検討している。</p>	<p>日々の関わりの中や嗜好調査で、言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。気づきノートや申し送りで共有し、利用者の視点に立って職員で話し合い、家族にも相談して本人中心に検討している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時は生活歴を聞き取り、環境、職業、趣味、性格等について把握するようしている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>毎日バイタル測定と体調観察を行い食事や水分摂取量、排泄状態等の観察をして現状を把握している。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族、主治医、訪問看護師、リハビリ・介護スタッフ等関係者と検討して介護計画を作成している。</p>	<p>本人や家族の意向を確認した上で、主治医や関係者の意見も踏まえ、個々に応じた介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、必要時に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日常の様子や支援方法、その結果、課題を記入して情報の共有をしている。毎月のミーティングでは個別検討して、その結果は掲示して実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護の受け入れをして健康管理を担ってもらっている。希望者には隣接病院のリハビリへの送迎をして機能維持や向上を図っている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を發揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政、自治会、消防署の協力を得たり、ボランティアの受け入れをして安全で豊かな暮らしの支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医を受診できるようにしている。必要な時は採血結果や血圧のデータ等の情報提供もしている。	本人及び家族の希望で、母体医療機関が主治医となっている。2週間に1回の受診と週3回のリハビリには職員が支援している。他科受診は家族の協力を得ている。訪問看護師との連携を図り、母体医療機関とは24時間医療連携体制が整っている。緊急時の対応などにも連携を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	経過や情報は訪問看護師に伝え対応の方法や助言をもらっている。早めに昼夜問わず相談するようになっている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時は書面で情報提供している。病状や見通しについては医療連携室を通じて、連絡を密にとり情報交換している。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	入居時に終末期に向けた方針について説明して同意を得ている。身体的な重度化については事業所としてできることを説明している。	入居時に終末期に伴う対応の指針を説明し、同意を得ている。状況変化に伴い、段階的に本人や家族・医師・看護師・職員で話し合い、「看取りに関する指針」を基に家族の思いを汲み、方向性を共有できるよう取り組んでいる。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	毎年消防署の指導で救急処置、心肺蘇生、AED使用方法の訓練をして有事に備えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人が行う避難訓練に年2回、独自で夜間想定の訓練を1回行っている。地域や家族の方にも参加してもらっている。	消防署立会いのもとで年2回の避難訓練と自主訓練を年1回、併設の母体医療機関と合同で地震訓練も踏まえた夜間想定の訓練を実施している。運営推進会議参加者や地域住民・家族の参加者もあり、協力体制もできている。食料品やその他の備品・非常時の備蓄は母体医療機関で備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>言葉遣いや言動を振り返る機会を作り全員で検討をして誇りやプライバシーを損ねない介護を目指している。</p>	<p>研修や勉強会を行い、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないケアに取り組んでいる。職員の言葉遣いで気になることは、その場で注意している。入浴やトイレ誘導などでは羞恥心に対する配慮を行っている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>単純な質問や選択しやすい状況を作るようになっている。食べたい物や行きたい場所などについてアンケートを実施している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの体調やペースで、読書やパズル、散歩や買い物等楽しんでもらっている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>季節に応じて衣類の入れ替えをして好みの服を選んでもらっている。顔の手入れやお化粧、マニキュア等のおしゃれの支援もしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	丼物の日、麺の日、手作りおやつの日を決め、メニューは掲示している。調理の下ごしらえや片づけなどは利用者の力量に応じて参加してもらっている。	差し入れの野菜を活用したり、旬の食材で利用者の嗜好に配慮した献立を作成している。個々に応じた食事形態を工夫している。調理の下ごしらえや片付けなどを職員と一緒に行ったりもする。誕生日の希望の献立や丼の日・麺の日・手作りおやつ・行事食・外食など、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は記録して必要量を確保している。また年に1回栄養計算をしてカロリーやバランスについて見直す機会を作っている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し見守りや介助をしている。個別で舌苔磨きをしてもらって口臭予防をしている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録をして排泄状況やパターンを把握してトイレ誘導することで失敗やおむつの使用を減らしている。夜間は室内でポータブルトイレを使用してもらって排泄の自立の支援をしている。	排泄のリズムを把握し、必要に応じての声かけをしている。リハビリで下肢筋力を整え、自然排便と排泄の自立を支援している。オムツ使用からパンツになつたり、パットの数が少なくなった事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、起床時の水分摂取、乳製品や野菜や芋類の摂取を促しながら、水分量や排便状況を記録して便秘予防をしている。			
45 17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	体調や状態に応じて一人ずつ入浴してもらっている。歌や会話を楽しみながら安全に楽しい時間になるように支援している。	入浴は基本的に週3回、午前中に行っているが、体調や希望に合わせて柔軟に対応している。朝風呂気分で歌や会話が弾み、入浴を楽しめるよう支援している。		
46	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し昼夜逆転にならないようにして、不安や混乱で不眠の時は否定せず傾聴して安心できるような支援をしている。			
47	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情はファイルしてピルブックで効能や副作用について正しく理解するようにしている。新たに処方された時は症状や体調の変化の観察をしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特技や趣味を生かして家事、園芸、おり紙、塗り絵、習字、書写、大正琴、パズル、読書などを楽しめるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	年間計画を立てて季節を感じたり開放的な気分になれるように外出支援をしている。また、家族の協力で希望に応じた外出や外泊ができている。	日常的には園内や周辺の散歩を楽しんでいる。希望でドライブや買い物にも出かけている。年間計画を立てて、地域行事や大浦鯨館・海浜公園等に出かけている。家族の協力で外出や外食などの際にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じてお金を所持して買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも電話ができるように支援している。年賀状や手紙のやりとりも続けて交流ができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館の周りには季節の花や野菜を植えて成長や収穫を楽しみにしてもらっている。館内は力を合わせて作った壁面飾りや習字、行事の写真を飾り居心地よく過ごせるように工夫している。	玄関入り口には季節の花が植えている。共用の空間は開放的で採光や換気・温度・湿度に配慮し清潔である。壁には利用者と職員で作った壁面飾りや作品・写真を飾り、季節感を大事にした花もあり、居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士で居室を訪問したり、玄関先や廊下で談笑できるようにベンチや椅子を置いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや椅子等の家具を持ち込んでもらっている。家族の写真やプレゼント等馴染みの物に囲まれて安心して過ごせるように工夫している。	居室はベッドやタンス・エアコンが備え付けである。寝具や家具・位牌・遺影・写真など、使い慣れた物や家族の思いが伝わるものを持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの状態や身体機能に応じて環境を整えて安全な生活が送れるように支援している。トイレや居室は表示して混乱がないようにしている。		

## V アウトカム項目

			1 ほぼ全ての利用者の
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目 : 23, 24, 25)	<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目 : 18, 38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目 : 38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目 : 36, 37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

			1 ほぼ全ての利用者が
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目 : 49)	<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全部面で不安なく過ごせている。 (参考項目 : 30, 31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目 : 28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目 : 9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

			1 ほぼ毎日のように
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目 : 9, 10, 19)	<input type="radio"/>	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目 : 4)		1 大いに増えている
		<input type="radio"/>	2 少しづつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目 : 11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない